

#### 4. 6 大学院で学んで役立っていること（自由記述）

大学院に進学した 369 名に尋ねた「大学院で学んだことが現在どのように役立っていますか。」という自由記述の質問には 63%の回答者から回答を得た。学部時代と同じという答えも少なくなかったが、「物理的なものの見方」が身についたこと；学会発表の経験；指導教員の研究に対する姿勢を目の当たりにしたこと；「何が本質か」を常に意識できるようになったこと、などが挙げられている。中でも「新しい研究テーマに対して自分で調査し、計画を立て、実験をまとめるという一連の流れを体験できた」とあるのは、日本技術者教育認定機構（JABEE）でも昨今の検討課題になっているエンジニアリング・デザイン教育の実践そのものと思われる。

中には「全く役に立っていない。学生時代に 2-3 年やったことを社会に出てから生かそうという考え方は無駄である」という意見や「役に立たないところが物理のよいところ」；「役に立つということを考えすぎるのはよくない」という意見もみられた。

しかし、大学院修了者は、より専門性の高い職種に就いている比率が高いことを反映してであろう、大学院での経験が直接・間接に貴重であったとの思いがうかがえる記述が多かった。

#### 4. 7 物理関連学科出身の有利な点（自由記述）

「現在の仕事において、物理系学科出身であることで他学科の出身者に比べて有利と思われることがありますか。」という自由記述の質問には、全体（777 名）のうち 69%から回答を得た。これらを多少重複はするが大別してみる。

##### 1) 思考方法・論理的思考力

思考の方法や論理的思考力についての意見を列記すると、物事の本質を考える能力；なぜと考える能力；原理・原則を考え解決する能力；知識ではなく考える能力；モデル化して解決する能力；バイタリティ；全体を見通せる；どんな論文でもまずは読んでみる習慣；自由な発想、などが挙げられていた。

##### 2) 基礎学力・応用力

主なものを列記すると、浅いが広い知識がある；オールラウンドである（つぶしがきく）；多くのことに柔軟に対応できる；アナロジーで理解可能；異なる分野の人とコミュニケーション可能；資格取得に便利；基礎学力があるので新たに勉強しても身につく（逆は困難）；文献等に当たって要領よく回答できる；物事の解析に物理の知識は不可欠であ